

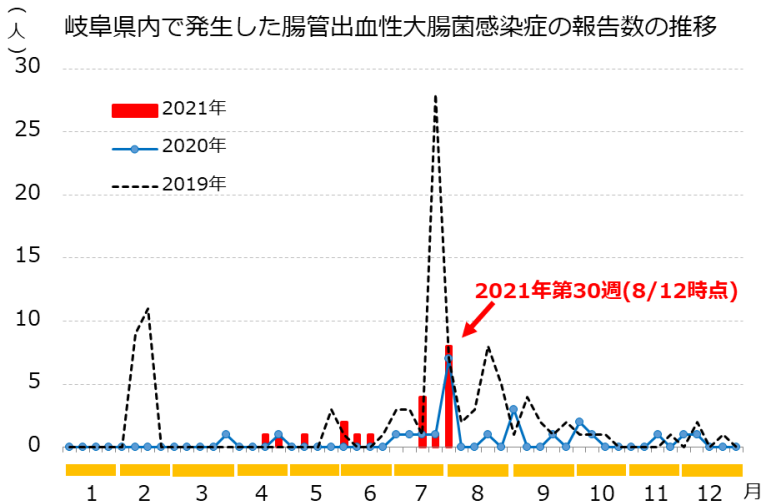
ぎふ感染症かわら版

令和3年8月12日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



腸管出血性大腸菌感染症（O157 など）にご注意ください。

O157 などによる腸管出血性大腸菌感染症は、夏季に感染者が増加する傾向があり注意が必要です。岐阜県では2019年7月下旬に多数発生し、今年も増加の兆候がみられることから、調理あるいはお食事前の石けんを使った手洗いや、肉料理の十分な加熱など、日常生活での予防対策をお願いします。



腸管出血性大腸菌感染症の発生は、気温の高い夏季に多くみられますが冬季にもみられます。また感染力が強いため、保育所などで集団発生をおこすことがあります。

近年では、2019年の2月と7月及び、8月に岐阜県内の保育園で集団発生がおこっています。



O157 などの腸管出血性大腸菌は、ベロ毒素という毒素をつくる大腸菌で、感染すると腹痛や激しい下痢、血便などをおこし、時に死に至ることもあります。

腸管出血性大腸菌（O157 など）の感染に注意が必要な人

- ◆ 乳幼児、高齢者及び、疾患等により抵抗力が弱まっている方



どうやって
予防すればいいの？

腸管出血性大腸菌は、牛などの家畜や人の便の中にいて、井戸水や食べもの、手指などを介して人に感染します。また感染力が強いため、**保育所や幼稚園などで集団感染をおこすことがあります。**そのため以下の感染予防対策をお願いします。

- トイレの後、調理あるいはお食事前には**石けんを使った手洗い**をおこないましょう。
- 調理の際、特に**お肉は中心部まで火が通るよう加熱**してください。
- 保育所等での集団感染を防ぐため、おむつ交換の後は石鹸を使った手洗いや手指の消毒を行い、交換後のおむつなどはきちんと処理しましょう。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

